



2026年9月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年5月14日

上場会社名 株式会社Waqoo 上場取引所 東
 コード番号 4937 URL https://waqoo.jp/
 代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 佐俣 文平
 問合せ先責任者（役職名） 執行役員（氏名） 古谷 恵輔 (TEL) 03-6805-4600
 半期報告書提出予定日 2026年5月14日 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 2026年9月期第2四半期（中間期）の連結業績（2025年10月1日～2026年3月31日）

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年9月期中間期	1,133	35.8	138	—	134	—	136	—
2025年9月期中間期	834	△10.6	△52	—	△54	—	△59	—

(注) 包括利益 2026年9月期中間期 136百万円(—%) 2025年9月期中間期 △59百万円(—%)

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年9月期中間期	38.63	38.41
2025年9月期中間期	△16.36	—

(注) 2025年9月期中間期の潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり中間純損失であるため、記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年9月期中間期	3,397	2,243	65.6
2025年9月期	3,199	2,091	65.1

(参考) 自己資本 2026年9月期中間期 2,229百万円 2025年9月期 2,082百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2026年9月期	—	0.00			
2026年9月期(予想)			—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年9月期の連結業績予想（2025年10月1日～2026年9月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,500	27.5	400	165.0	390	155.9	250	467.0	68.62

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 無
新規 一社(社名) — 、除外 一社(社名) —

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2026年9月期中間期	3,643,068株	2025年9月期	3,622,668株
2026年9月期中間期	100,023株	2025年9月期	100,023株
2026年9月期中間期	3,533,154株	2025年9月期中間期	3,616,997株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(中間期)

※ 第2四半期(中間期)決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、リスクや不確定な要素等の要因が含まれており、実際の業績は記載の見通しとは異なる可能性がございます。なお、上記業績予想に関する事項は、3ページ「1. 当中間決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 中間連結貸借対照表	6
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	8
中間連結損益計算書	8
中間連結包括利益計算書	9
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	11

1. 当中間決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

(1) 業績の状況

文中の将来に関する事項は、当中間連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

当中間連結会計期間(2025年10月1日～2026年3月31日)における我が国経済は、雇用・所得環境の改善を背景に個人消費に持ち直しの動きが見られたものの、物価上昇の継続に伴う実質所得の伸び悩み等により、景気回復は緩やかなものとなりました。

このような環境のもと、当社グループは事業ポートフォリオの構造転換を成長機会と捉えた戦略的取り組みを推進してまいりました。

具体的には、メディカルサポート事業にて展開する血液由来加工サービス「PDF-FD」(※1)におきましては、①提携医院数、②加工受託件数、③平均加工受託件数(稼働率)を重要なKPIと設定し、新規提携数の拡大だけでなく既存提携先の稼働率向上を重視した施策を徹底いたしました。これらの結果、ストック型収益の積み上げによる収益の安定性が向上しております。



さらに、当社親会社であるSBCメディカルグループ株式会社(※2)との事業シナジーも具体的な進捗を見せ始め、両社グループの企業価値向上策が徐々に萌芽してまいりました。引き続き「売上規模」に加え「収益の質」を追求・加速する施策に取り組んでまいります。

D2C事業においては、事業環境の変化を踏まえ、「キャッシュ創出機能」として事業部門を再定義し、投資効率を重視した運営へ転換しております。

これらの取り組みを着実かつ積極的に推進した結果、当社グループでは、高収益事業へのシフトが進展するとともに、成長性と収益性を両立する事業基盤の構築が進んでおります。今後は、再現性の高い成長モデルを基盤として、グループ全体のスケールアップフェーズへ移行し、中長期的な企業価値の最大化を目指してまいります。

以上の結果、当社グループの当中間連結会計期間の売上高は1,133,473千円(前年同期比35.8%増)、営業利益は138,170千円(前年同期は営業損失52,305千円)、経常利益は134,535千円(前年同期は経常損失54,568千円)、親会社株主に帰属する中間純利益は136,485千円(前年同期は親会社株主に帰属する中間純損失59,163千円)となりました。

(連結経営成績の概況)

(単位：千円)	2025年9月期 第2四半期	2026年9月期 第2四半期	増減額 () 内増減率
売上高	834,854	1,133,473	298,619 (35.8%)
営業利益又は営業損失(△)	△52,305	138,170	190,475 (-)
経常利益又は経常損失(△)	△54,568	134,535	189,103 (-)
親会社株主に帰属する 中間純利益又は親会社株主 に帰属する中間純損失(△)	△59,163	136,485	195,648 (-)

(メディカルサポート事業)

血液由来加工サービスにおきましては、利用者様からの需要の高まりを背景に案件数が増加し、売上高が堅調に推移いたしました。KPIである提携医院数は796院(前年同期比242院増)、累計加工受託件数は19,897件(同8,632件)といずれも期初計画を上回り推移いたしました。なお、稼働率は60.1%(同-4p)と微減となりましたが、これは新規提携医院の先行拡大に伴う一時的な低下であり、その後の稼働立ち上がりに伴い中期的には上昇トレンドに回帰する見込みです。

収益面におきましては、サービスの高度化およびオペレーション効率の改善、すなわち「ワンストップ型営業」(※3)を進めたことにより、効率性が向上し、中長期的な収益基盤の強化に寄与しております。

子会社のセルプロージャパン株式会社を中心とした「原料販売事業」におきましては、安全性・品質面における高い信頼性を背景に、既存取引先の他、新たな取引先を開拓し、収益機会の確保を実現いたしました。

この結果、同事業における当中間連結会計期間のセグメント売上高は631,890千円(前年同期比90.4%増)、セグメント利益は88,122千円(前年同期はセグメント損失8,594千円)となりました。

(D2C事業)

D2C事業におきましては、広告媒体費の高騰や消費者行動の変化等の影響を受け、厳しい事業環境が継続しております。このような状況のもと、当社は新規顧客獲得を抑制し、既存顧客基盤の収益最大化を重視した事業運営へと転換いたしました。主に既存顧客へのクロスセル強化に加え、高収益モデルであるモールチャネルでの売上拡大に注力しております。さらに、AIボットの導入などを通じた顧客対応業務の効率化を推進し、固定費削減および収益性の向上に取り組ましました。

この結果、同事業における当中間連結会計期間のセグメント売上高は376,022千円(前年同期比25.2%減)、セグメント利益は162,838千円(前年同期比13.4%増)となりました。

(その他)

提携医療機関におけるサービスの高度化ニーズを背景に、海外の先進的な製品・技術の紹介および導入を推進いたしました。その結果、海外メーカーとの連携を通じた国内市場における当社のポジショニングが着実に積み上がりました。

上記の結果、同事業における当中間連結会計期間の売上高は125,560千円、セグメント利益は95,318千円となりました。

当社のバリュープロポジション

提携医院のニーズに基づき、海外の先進的な製品・技術の紹介および導入をするビジネスモデル

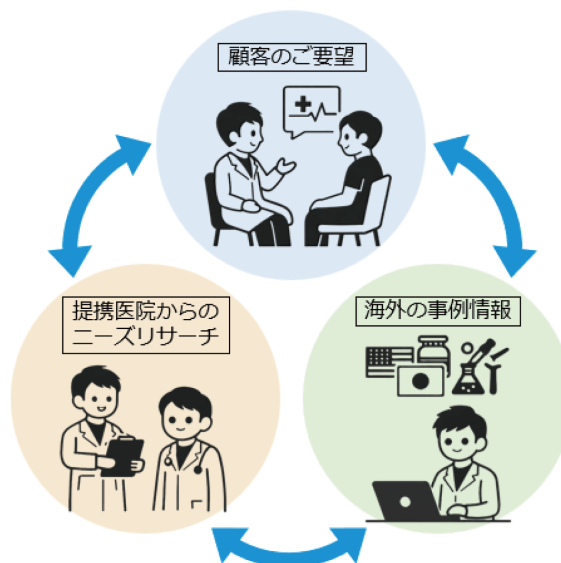
複数の海外メーカーとの早期関係構築により、先行者利益（ブランド認知、顧客基盤の確立、高価格設定、技術的なリーダーシップなどの優位性）を獲得

●競争優位性と参入障壁

「特許技術×R&Dデータ×医療機関ネットワーク」の三位一体構造

●成長拡張性

既存基盤を活用した、周辺領域への横展開が可能な拡張型モデル



本領域では、当社が有する医療機関ネットワークおよびデータ資産を基盤に、複数の製品・技術を横断的に展開することで、プラットフォーム型の収益モデルへの進化を目指しております。これにより、医療機関ネットワークの強化、顧客基盤の早期形成、高付加価値領域における価格優位性の確保、さらには技術的なリーダーシップの発揮といった複合的な競争優位性を実現してまいりたいと考えております。

(セグメント別の概況)

(単位：千円)		2025年9月期 第2四半期	2026年9月期 第2四半期	増減率
メディカル サポート事業	売上高	331,854	631,890	90.4%
	セグメント利益	△8,594	88,122	—
D2C事業	売上高	502,999	376,022	△25.2%
	セグメント利益	143,573	162,838	13.4%
その他	売上高	—	125,560	—
	セグメント利益	—	95,318	—
調整額	売上高	—	—	—
	セグメント利益	△187,283	△208,108	—
連結合計	売上高	834,854	1,133,473	35.8%
	セグメント利益	△52,305	138,170	—

(※1) Plasma Derived Factor - Freeze Dryの略称。自らの血液から抽出した血漿由来成分を凍結乾燥 (Freeze Dry) し、凍結保存できるようにしたもの。当社代表取締役社長兼研究開発責任者 佐俣 文平により開発された技術。

(※2) 先進的な美容医療をはじめ、皮膚科、整形外科、不妊治療、婦人科、歯科、脱毛症治療 (AGA)、眼科など幅広い診療領域において、国内外の医療機関に経営支援を行うMedical Services Organization (医療経営支援会社)。2024年9月NASDAQ市場へ上場 (ティッカー：SBC)。

(※3) 従来複数の担当者で分担していた活動を、担当者一人で新規契約からCS (PDF-FDを最大限に活用できるように支援する活動) までを行う営業スタイルのこと。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当中間連結会計期間末における流動資産は2,043,053千円となり、前連結会計年度末に比べ261,164千円の増加となりました。これは主に、現金及び預金が66,964千円、売掛金が210,607千円増加したことによるものであります。

当中間連結会計期間末における固定資産は1,354,898千円となり、前連結会計年度末に比べ62,377千円の減少となりました。これは主に、のれんの減少61,191千円によるものであります。

(負債)

当中間連結会計期間末における流動負債は811,956千円となり、前連結会計年度末に比べ120,227千円の増加となりました。これは主に、1年内返済予定の長期借入金が28,574千円、未払法人税等が63,082千円減少したものの、未払金が213,383千円増加したことによるものであります。

当中間連結会計期間末における固定負債は342,496千円となり、前連結会計年度末に比べ73,289千円の減少となりました。これは主に、長期借入金の減少73,980千円によるものであります。

(純資産)

当中間連結会計期間末における純資産は2,243,499千円となり、前連結会計年度末に比べ151,849千円の増加となりました。これは主に、利益剰余金の増加136,485千円によるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末より66,964千円増加し、1,369,266千円(前年同期比5.0%増)となりました。当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動による資金の増加は162,953千円(前年同期は9,953千円の資金の収入)となりました。これは主に、売上債権の増加額226,503千円、法人税等の支払額64,535千円があったものの税金等調整前中間純利益134,535千円の計上、未払金の増加額213,383千円、のれん償却額61,191千円があったことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動による資金の減少は3,634千円(前年同期は88,054千円の資金の支出)となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出3,381千円があったことによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動による資金の減少は92,354千円(前年同期は122,701千円の資金の支出)となりました。これは主に、長期借入金の返済による支出102,554千円があったことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年9月期の連結業績予想につきましては、2026年5月14日に公表いたしました「2026年9月期 通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

また、当社はこれまで企業価値の最大化を経営の課題として取り組んでまいりました。成長投資を中心とした経営を推進し、その結果、収益力の向上が進み安定的な利益創出が可能な事業基盤を整えることができました。

今後は、成長投資による企業価値向上を継続しつつ、株主還元策による株主価値向上につきましても積極的に検討を進めてまいります。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年9月30日)	当中間連結会計期間 (2026年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,302,301	1,369,266
売掛金	310,893	521,501
商品及び製品	87,618	79,586
仕掛品	10,376	11,372
原材料及び貯蔵品	15,173	16,964
その他	55,728	44,567
貸倒引当金	△204	△204
流動資産合計	1,781,888	2,043,053
固定資産		
有形固定資産	375,943	372,256
無形固定資産		
のれん	1,009,663	948,472
その他	2,050	1,469
無形固定資産合計	1,011,714	949,941
投資その他の資産		
その他	30,459	33,540
貸倒引当金	△840	△840
投資その他の資産合計	29,618	32,700
固定資産合計	1,417,275	1,354,898
資産合計	3,199,164	3,397,952
負債の部		
流動負債		
買掛金	4,183	8,215
短期借入金	190,000	190,000
1年内返済予定の長期借入金	199,888	171,314
未払金	121,097	334,480
未払法人税等	64,407	1,325
未払費用	37,716	46,115
賞与引当金	10,231	5,407
その他	64,204	55,098
流動負債合計	691,728	811,956
固定負債		
長期借入金	341,139	267,159
リース債務	390	334
資産除去債務	74,256	75,002
固定負債合計	415,785	342,496
負債合計	1,107,514	1,154,453

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2025年9月30日)	当中間連結会計期間 (2026年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	54,567	59,667
資本剰余金	2,466,417	2,471,517
利益剰余金	△338,607	△202,121
自己株式	△99,977	△99,977
株主資本合計	2,082,400	2,229,085
新株予約権	9,249	14,413
純資産合計	2,091,650	2,243,499
負債純資産合計	3,199,164	3,397,952

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

中間連結損益計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (自 2025年10月1日 至 2026年3月31日)
売上高	834,854	1,133,473
売上原価	177,474	299,757
売上総利益	657,380	833,715
販売費及び一般管理費	709,685	695,544
営業利益又は営業損失(△)	△52,305	138,170
営業外収益		
受取利息	460	835
償却債権取立益	1,200	—
雑収入	265	80
営業外収益合計	1,925	915
営業外費用		
支払利息	3,949	4,551
雑損失	239	—
営業外費用合計	4,188	4,551
経常利益又は経常損失(△)	△54,568	134,535
税金等調整前中間純利益又は税金等調整前中間純損失(△)	△54,568	134,535
法人税、住民税及び事業税	4,595	1,452
法人税等調整額	—	△3,403
法人税等合計	4,595	△1,950
中間純利益又は中間純損失(△)	△59,163	136,485
親会社株主に帰属する中間純利益又は親会社株主に帰属する中間純損失(△)	△59,163	136,485

中間連結包括利益計算書

(単位:千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (自 2025年10月1日 至 2026年3月31日)
中間純利益又は中間純損失(△)	△59,163	136,485
中間包括利益	△59,163	136,485
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	△59,163	136,485

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (自 2025年10月1日 至 2026年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益又は税金等調整前中間純損失(△)	△54,568	134,535
減価償却費	6,463	7,649
のれん償却額	61,191	61,191
株式報酬費用	2,728	5,163
受取利息及び受取配当金	△460	△835
償却債権取立益	△1,200	—
支払利息	3,949	4,551
売上債権の増減額(△は増加)	35,658	△226,503
棚卸資産の増減額(△は増加)	△30,377	5,245
仕入債務の増減額(△は減少)	△526	4,031
前払費用の増減額(△は増加)	△3,090	△1,165
賞与引当金の増減額(△は減少)	—	△4,823
未収入金の増減額(△は増加)	500	3,325
未払金の増減額(△は減少)	27,673	213,383
預り金の増減額(△は減少)	1,993	2,395
未払費用の増減額(△は減少)	1,859	8,399
未収消費税等の増減額(△は増加)	17,959	2,680
その他	△6,419	12,000
小計	63,336	231,224
利息及び配当金の受取額	389	835
利息の支払額	△3,949	△4,571
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△49,823	△64,535
営業活動によるキャッシュ・フロー	9,953	162,953
投資活動によるキャッシュ・フロー		
償却債権の回収による収入	1,200	—
有形固定資産の取得による支出	△85,930	△3,381
敷金及び保証金の差入による支出	△3,323	△3,017
敷金及び保証金の回収による収入	—	2,764
投資活動によるキャッシュ・フロー	△88,054	△3,634
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	74,000	—
長期借入金の返済による支出	△91,920	△102,554
株式の発行による収入	—	10,200
自己株式の取得による支出	△19,831	—
自己株式取得のための預託金の増減額(△は増加)	△84,950	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△122,701	△92,354
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△200,802	66,964
現金及び現金同等物の期首残高	1,505,331	1,302,301
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,304,528	1,369,266

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報
前中間連結会計期間(自 2024年10月1日 至 2025年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	中間連結 損益計算書 計上額 (注3)
	メディカル サポート事業	D2C事業	計				
売上高							
通販	—	500,201	500,201	—	500,201	—	500,201
血液加工	153,075	—	153,075	—	153,075	—	153,075
原料販売	176,828	—	176,828	—	176,828	—	176,828
その他	1,950	2,798	4,749	—	4,749	—	4,749
顧客との契約から生 じる収益	331,854	502,999	834,854	—	834,854	—	834,854
外部顧客への売上高	331,854	502,999	834,854	—	834,854	—	834,854
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	331,854	502,999	834,854	—	834,854	—	834,854
セグメント利益又は 損失(△)	△8,594	143,573	134,978	—	134,978	△187,283	△52,305

(注) 1. 「その他」は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、海外事業であります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△187,283千円は、主に報告セグメントに配分していない一般管理費等の全社費用であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、中間連結損益計算書の営業損失と一致しております。

当中間連結会計期間(自 2025年10月1日 至 2026年3月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	中間連結 損益計算書 計上額 (注3)
	メディカルサ ポート事業	D2C事業	計				
売上高							
通販	—	374,659	374,659	—	374,659	—	374,659
血液加工	174,972	—	174,972	—	174,972	—	174,972
原料販売	268,140	—	268,140	—	268,140	—	268,140
その他	188,777	1,362	190,140	125,560	315,700	—	315,700
顧客との契約から生 じる収益	631,890	376,022	1,007,912	125,560	1,133,473	—	1,133,473
外部顧客への売上高	631,890	376,022	1,007,912	125,560	1,133,473	—	1,133,473
セグメント間の内部 売上高又は振替高	539	—	539	—	539	△539	—
計	632,429	376,022	1,008,451	125,560	1,134,012	△539	1,133,473
セグメント利益	88,122	162,838	250,960	95,318	346,279	△208,108	138,170

(注)1. 「その他」は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、海外事業であります。

2. セグメント利益の調整額 △208,108千円は、主に報告セグメントに配分していない一般管理費等の全社費用であります。

3. セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社はグローバル推進の展開を目的として「海外事業部」を新設いたしました。重要性が乏しいことから報告セグメントに含まれない「その他」事業としております。

なお前中間連結会計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成したものを記載しております。